

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(1階)		
所在地	羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成22年7月5日	評価結果市町村受理日	平成22年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600486&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日を」という理念のもと、利用者、家族、職員、合わせて大きな家族として、共に支えあいながらより一層暖かなケアが提供できるよう、努めていきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、幹線道路から一步入った静かな住宅地に建てられている。広い庭があり、利用者が安心して庭に出たり、地域の住民が気軽に立ち寄ることができる。建築家である管理者により、できる限り家庭と同じ環境を大切にすよう、木製品を利用している。台所なども対面式に設置し、職員がどこにいても利用者に見くばりのできる設計となっている。「家庭的な雰囲気でお安らぐ毎日を」を、理念とし支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」という理念にそって安らぎと安心感のもてるホームを目指し取り組んでいる。	利用者が「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」という理念をかかげている。職員会議等で、接遇の重要性を確認しながら、理念の意義を共有している。地域密着型を重視し、今までと変わらない環境を守り、安らぎと、笑いが絶えない暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民とも挨拶や談話、野菜やお花を頂いたり、交流を図っている。年々つながりの輪を広げられるように努めている。	「もも便り」を、2ヶ月ごとに発行し、地域に配布して事業所の情報を伝えている。また、民生委員などの協力を得て、独居老人などをイベントに招待している。日頃から地域の人々が気軽に訪問するなど、地域との交流は、広範囲に広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の独居の方への気軽なホームへの訪問、交流を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	もも便りを作成し、ご家族へ運営推進のご案内を行ったり、近隣の方が1名メンバーとして加わって頂けた。また、会議内容をミーティング時に職員に報告、共有に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、行政・地域関係者が参加者している。ホームの行事案内、利用者の生活などについて意見を出し合っている。子ども110番の受け入れや、参加者からは、地域でどんな協力ができるかなど、積極的な意見が出ている。	ホームの行事などの案内は、運営推進会議でも取り上げているが、自治会の回覧等を利用し、地域住民にホームの取り組みが理解され、行事などに参加してもらうことを提案されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用者状況を報告したり、事故報告書を通して対策を相談に乗っていただいたり、また、町主催の勉強会には積極的に参加している。	地域包括支援センター、町担当者との連携を密にしている。利用者の費用負担が困難な事例など相談したり、指導を受けている。町主催の研修会に参加し、他のホームとの情報交換なども行い、有意義な交流を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの取り組み」を提示し、身体拘束に対する意識付けができた。安全を確保しながら抑圧のない自由な暮らしの支援に努めている。	入居時に「身体拘束ゼロへの取り組み」を具体的に説明し、理解を得ている。職員は具体的な例をあげ、研修を重ねることで、抑圧のない安全なケアについて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、再度職員間で振り返る機会を設けた。また、言葉遣いについては具体例を出し、家庭的の中にも行きすぎになっていないかミーティングで見直している。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護として虐待の勉強会を行っているが、制度については研修に出席しているも職員全員の共有まではできていない。本年度から成年後見人制度利用の方がみえ、連絡をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明、ご理解、ご納得の上で承諾を頂いている。契約後も不安や疑問点、ご要望などには説明と出来る限りの柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、家族との連絡、報告を行い、気兼ねなく話せる関係作りに努めている。頂いたご意見は早急にミーティングで議題にあげ、改善に取り組んでいる。	家族とは、何でも気兼ねなく話し合う関係ができており、直接意見や要望を聞くことができる。外出支援や重度化の不安などの意見がある。課題については、即ミーティングで検討し、管理者と共に改善に取り組んでいる。	利用者・家族の声をまとめることができ、協力関係ができる家族の連絡会、または、家族会のようなものを、つくることも検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年と同様、ホーム独自の自己評価票を使用し、職員全員で行った結果、意見や提案が活発にあり改善に向けて今年の取り組みとしたい。	職員の意見を聴く機会を、毎月1回設けている。資格取得や研修の希望、勤務調整等の意見がある。運営者・管理者を含め検討し、できるものから運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得は奨励しており、働きやすい職場環境に努め、希望休や希望勤務にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が順次研修に参加している。また、内容や学びを報告する機会を設け、職員間での共有を図っている。ホームでの勉強会も1~2カ月に一度行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流や福祉用具についての相談、社協との電話相談などネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ず本人に会い、リラックスした雰囲気作りで心掛け、本人の思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何が困っているのか、何を求めて見えるのか本人との思いのずれなど傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談の上、サービス開始時期を調整している。家族の交通の便なども考えて、他のサービスについての説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する一されるになりがちだが、日常生活の中でこちらの学びもあり、一方通行ではない関係作りを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年より暮らしの日記を作成し、職員全員で取り組んでいる。毎月の請求書と一緒に郵送し、ホームでの様子を理解して頂き、職員と一緒に支えあう支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームは日中は施錠せず、気軽に来て頂ける事を大切にしている。昔の同僚や知人の訪問がある。馴染みの喫茶店への外出など関係継続に努めているが、車椅子利用者が多くなった現状である。	利用者の生活を大切にし、馴染みの関係が途切れることがないように努めている。玄関は施錠せず、同僚や同郷の人に気軽に立ち寄ってもらっている。馴染みのある神社や寺へは、職員と同行し、馴染みの遠隔地への同行は、家族が担っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑にいくように努めている。また、利用者同士の関係を持てるように、職員がどう支援していくのか、今後の課題としたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ホームに来て下さる方はみえるが、全ての方と関係を断ち切らない取り組みができていないわけではない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中で一人一人との関わり、向き合う姿勢を大切にしている。希望や意向はできる限り柔軟な対応に努め、また暮らしの日記に乗せることでご家族との共有にも努めている。	利用者が、毎日生活するなかで、表情や言動から、思いや意向を汲み取っている。その都度、日記に記録し、毎月家族に連絡している。家族からも、本人に関する情報を聞いて、柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期計画において、本人、家族より生活歴や嗜好等を聞き取り、アセスメントを行っている。日常的な支援においても、これまでの暮らしを把握した支援に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに介護記録を記入し、一日の流れとして把握できるようにしている。また、できる力の発見はミーティングで職員の情報交換を行い、維持、向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日常生活を観察し、必要な支援を月1回の会議で話し合っている。それ以外の気づきやプランの修正はその日の勤務者で早急に話し合い、連絡ノートに記入し、ケアに取り組んでいる。	定期会議が、毎月行われ、職員の意見や感想を聞いて、介護計画に反映させている。また、必要な関係者、本人・家族、医師・看護師とも十分に話し合っている。3ヶ月ごとの定期見直しと、状態の変化に応じて随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの介護記録にケアプランを載せ、ケアを実施した結果や状況を記録に残している。また、気づきやこうしたほうが良いという意見を会議での話し合いとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や家族が対応できない時の通院介助、散髪サービスなど事業所のできる範囲で、対応に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベント以外に、利用者と一緒に消防、消火訓練に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の説明とともに、入居にあたっての希望のかかりつけ医の確認を行っている。また、救急でかかる場合の希望の病院の確認も行い、急変時すぐにわかるように掲示している。	入居時に、協力医の体制を説明し、受診の希望を取っている。これまでの、かかりつけ医に継続の人もいるので、いずれも職員同行による受診を支援している。緊急時・急変時には、各担当医師から適切な指示が得られる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍しており、介護職との情報交換や日頃の利用者の健康管理や状態変化の把握に努め、医療機関との連携に取り組んでいる。夜間は電話にて対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は早期に面会し、ホームでの情報提供を行っている。また、退院にあたっては、現在の状態や今後起こりうること、ホームでできること、できないことなど医療側と話し合い、退院調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と相談しながら、内服の変更や状態変化を随時報告以外に日頃の日記として分かりやすく作成しお伝えしている。また、ホームのできないことを明確し、家族と話し合い方針を固めている。	重度化や終末期に向けて、事業所でできること、できないことを、家族に説明している。重度化の限度については、かかりつけ医や協力医と相談し、医療を伴う場合、入院等で対応してもらうように、方針を定めている。	重度化や終末期に向けた家族への説明は、口答で行われているが、事業所の方針を文書化することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での心肺蘇生、誤嚥、窒息の場合の勉強会は行ったが、まだ自信にはつながっておらず、今後も定期的に外部研修、内部研修を行っていくことを課題としたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、通報訓練の他に運営推進会議の議題にあげ、避難誘導後の利用者の安全確保を地域の方へのご理解とご協力をお願いしている。	消防職員立会いで、年2回の避難訓練を実施している。緊急連絡網の活用方法、階段やベランダからの避難誘導について指導を受けている。地域との協力体制は、運営推進会議のなかで、呼びかけている。	運営推進会議で、地域の人々に、災害訓練への参加を呼びかけているので、その実現に期待したい。さらには、訓練と運営推進会議を同時に行うことができないか、検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議で尊厳を大切に言葉遣いや対応について話し合い初心に戻るための見直し作業を行っている。プライバシーについても意識を持ち、取り組んでいる。	高齢者を敬い、尊厳を損ねないように、意識しながら取り組んでいる。特に、言葉遣いが馴れ合いになったり、対応が疎かにならないように、常に接遇の初心に立ち返るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望にはできるだけ対応する姿勢で取り組んでいる。思いを上手く表出できない方には、コミュニケーションからキャッチしたり、まずはじっくりとコミュニケーションを図るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気分、したい、したくない思いに合わせたケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の暮らしの中で身だしなみには気配りして取り組んでいるが、入浴後の衣類などこちらで決めていることもあり、自己決定やその人らしさが今後の課題である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のできる力に応じて、また一緒に行うことによる交流の場として調理活動に取り組んでいる。片付け作業においても、役割を持ち利用者同士が協力して取り組む場となっている。	利用者と共に、庭で育てた季節の野菜を、一緒に調理することを楽しんでいる。食材の準備や配膳、片付けも一緒に行っている。職員も、同じ食事を一緒に食べながら、味付けや食材の話ではずんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記入、一日のバランスとして把握し、こまめな水分補給に気を付け取り組んでいる。また、一人一人に合わせてキザミやミキサー、とろみなど食べやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやスポンジ、ガーゼなど一人一人に合わせた方法で口腔ケアに取り組んでいる。職員間の引き継ぎがスムーズにいくよう、チェック項目を設ける意見があり、今年から取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄に取り組んでいる。また、パットが必要なタイミングを職員間、家族と話し合い、自尊心を考慮しながら取り組んでいる。	利用者個々の、排泄チェック表をもとに把握し、トイレ誘導を行っている。3ヶ所にトイレがあり、利用者の状態に合ったトイレの場所を意識的に使っている。トイレや脱衣籠に個人の物が置かれているが、他人の目にふれないよう目隠しするなどの配慮がしてある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1か月の排便習慣が分かるように記録しており、内服が必要な方には日中に排便習慣が持てるように、内服時間を考慮して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の基本のベースはあるが、その時の体調や気分、希望によって柔軟に対応している。また、使用する椅子やマット、介助人数も利用者に合わせて取り組んでいる。	入浴は、週3回が基本であるが、利用者の希望により回数を増やすこともある。入浴嫌いな利用者には、入浴後の楽しみを話し、誘導している。入浴時の会話を大切に、思いや希望を聞く場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況やその日の体調を考慮し、一人一人に合わせた休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬がないように、名前、用法、日付を記入し、職員が配薬もしくは介助し、確実に飲んでいるか確認する体勢をとっている。症状変化による服薬の判断は看護師のもと、行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の意欲や得意なこと、その時の体調や気分に合わせて調理活動以外にも洗濯物や新聞たたみ、雑巾縫いなど取り組んでいる。できない方や意欲の乏しい方への安らぎの支援を今後も大切にしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する利用者が固定化しないように配慮しながら、近隣の喫茶店や買い物、散歩、お参りなど日常的な外出支援に取り組んでいる。ベランダで外気浴もいい気分転換となっている。	職員は、利用者と共に、近隣のスーパーなどへ、食材の買い物、個人の買い物などで、外出している。また、馴染みの喫茶店、寺や神社などにもよく出かけている。外出が不可能な場合は、ベランダでの外気浴も、多く取り入れている。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望と力量、家族の意向に応じて、本人がお金を所持している方もみえる。また、何回もなくされる方は本人、家族との話し合いのうえ、ホームで預かっている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は一人一人に合わせて行っている。不安などから電話を希望される方には、事前に家族に説明し了解のもと、行っている。電話をしたいと言いやすい環境づくりにも努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子以外にソファを玄関やフロアに配置し、くつろげるスペースをつくっている。トイレや台所、お風呂など共同の空間は居心地よく使えるように、臭いや汚れには特に気を付けている。	共用の廊下などは、空間が多く取られ、雨の日などは室内で散歩ができる。フロアでは、ソファでくつろぎ、居室よりは、共用の部屋で過ごす人が多い。季節感を採り入れた利用者手作りの作品が飾られており、居心地の良い雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者の皆さんがテレビがみえ、また利用者同士の関係も考慮した席に努めている。食卓以外にもソファや廊下に椅子を配置するなど、一人になったり職員と過ごしたりできる環境に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切なものや馴染みの物を持ってきていただけるように説明し、本人にとって安らげる居室づくりに取り組んでいる。その際、安全面にも配慮した配置に努めている。	本人、家族が工夫し、馴染みの部屋が作り出されている。部屋には、はめ込み式の収納庫があるので、空間が広く確保されている。そこに、使い慣れた思いで多い丁度品が並べられ、本人にとって、安らぎを感じることができるよう、工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今ある機能を維持できるように、介助しすぎず適切なサポートに努めている。転倒リスクを考慮しながらも、できるだけ安全な歩行手段を検討したり、見守りを多くしたり機能の維持に取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(2階)		
所在地	羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成22年7月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」という理念にそって安らぎと安心感のもてるホームを目指し取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方には野菜やお花を頂いたり、月に2~3回不定期に面会にも来て頂ける。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の独居の方への気軽なホームへの訪問、交流を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーも増え、ミーティング時に報告、職員間の共有にも努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用者状況を報告したり、事故報告書を通して対策を相談に乗っていただいたり、また、町主催の勉強会には積極的に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を提示し、日頃から拘束のない取り組みを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待及び身体拘束、権利擁護など県の研修会に積極的に参加し、職員間で意識づけしている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護として虐待の勉強会を行っているが、制度については研修に出席しているも職員全員の共有まではできていない。本年度から成年後見人制度利用の方がみえ、連絡をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明、ご理解、ご納得の上で承諾を頂いている。契約後も不安や疑問点、ご要望などには説明と出来る限りの柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、家族との連絡、報告を行い、気兼ねなく話せる関係作りに努めている。頂いたご意見は早急にミーティングで議題にあげ、改善に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年と同様、ホーム独自の自己評価票を使用し、職員全員で行った結果、意見や提案が活発にあり改善に向けて今年の取り組みとしたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得は奨励しており、働きやすい職場環境に努め、希望休や希望勤務にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が順次研修に参加している。また、内容や学びを報告する機会を設け、職員間での共有を図っている。ホームでの勉強会も1~2カ月に一度行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流や福祉用具についての相談、社協との電話相談などネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ず本人に会い、リラックスした雰囲気作りに心掛け、本人の思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何が困っているのか、何を求めて見えるのか本人との思いのずれなど傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談の上、サービス開始時期を調整している。家族の交通の便なども考えて、他のサービスについての説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として利用者に生活の知恵など逆に教えて頂くことが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年より暮らしの日記を作成し、職員全員で取り組んでいる。毎月の請求書と一緒に郵送し、ホームでの様子を理解して頂き、職員と一緒に支えあう支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームは日中は施錠せず、気軽に来て頂ける事を大切にしている。昔の同僚や知人の訪問がある。馴染みの喫茶店への外出など関係継続に努めているが、車椅子利用者が多くなった現状である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの過ごし方、食事の席等、利用者同士の関係が円滑にいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ホームに来て下さる方はみえるが、全ての方と関係を断ち切らない取り組みができていないわけではない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中で一人一人との関わり、向き合う姿勢を大切にして取り組んでいる。希望や意向はできる限り柔軟な対応に努め、また暮らしの日記に乗せることでご家族との共有にも努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期計画において、本人、家族より生活歴や嗜好等を聞き取り、アセスメントを行っている。日常的な支援においても、これまでの暮らしを把握した支援に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに介護記録を記入し、一日の流れとして把握できるようにしている。また、できる力の発見はミーティングで職員の情報交換を行い、維持、向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日常生活を観察し、必要な支援を月1回の会議で話し合っている。それ以外の気づきやプランの修正はその日の勤務者で早急に話し合い、連絡ノートに記入し、ケアに取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの介護記録にケアプランを載せ、ケアを実施した結果や状況を記録に残している。また、気づきやこうしたほうがいいという意見を会議での話し合いとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や家族が対応できない時の通院介助、散髪サービスなど事業所のできる範囲で、対応に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント開催には、ご本人の意向に沿って個々の豊かな暮らしのお手伝いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の説明とともに、入居にあたっての希望のかかりつけ医の確認を行っている。また、救急でかかる場合の希望の病院の確認も行い、急変時すぐにわかるように掲示している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍しており、介護職との情報交換や日頃の利用者の健康管理や状態変化の把握に努め、医療機関との連携に取り組んでいる。夜間は電話にて対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は早期に面会し、ホームでの情報提供を行っている。また、退院にあたっては、現在の状態や今後起こりうること、ホームでできること、できないことなど医療側と話し合い、退院調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と相談しながら、内服の変更や状態変化を随時報告以外に日頃の日記として分かりやすく作成しお伝えしてる。また、ホームのできないことを明確し、家族と話し合い方針を固めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での心肺蘇生、誤嚥、窒息の場合の勉強会は行ったが、まだ自信にはつながっておらず、今後も定期的に外部研修、内部研修を行っていくことを課題としたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、通報訓練の他に運営推進会議の議題にあげ、避難誘導後の利用者の安全確保を地域の方へのご理解とご協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議で尊厳を大切に言葉遣いや対応について話し合い初心に戻るための見直し作業を行っている。プライバシーについても意識を持ち、取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望にはできるだけ対応する姿勢で取り組んでいる。思いを上手く表出できない方には、コミュニケーションからキャッチしたり、まずはじっくりとコミュニケーションを図るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に選択して頂くように努め、利用者一人一人に合わせた生活を送って頂けるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で着て見えた生活衣類を持ってきていただき、ご本人の自己決定をできる限り優先している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のできる力に応じて、また一緒に行うことによる交流の場として調理活動に取り組んでいる。片付け作業においても、役割を持ち利用者同士が協力して取り組む場となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記入、一日のバランスとして把握し、こまめな水分補給に気を付け取り組んでいる。また、一人一人に合わせてキザミやミキサー、とろみなど食べやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやスポンジ、ガーゼなど一人一人に合わせた方法で口腔ケアに取り組んでいる。職員間の引き継ぎがスムーズにいくよう、チェック項目を設ける意見があり、今年から取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄に取り組んでいる。また、パットが必要なタイミングを職員間、家族と話し合い、自尊心を考慮しながら取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表、水分チェック、また内服管理にて排便の把握に努め、管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の基本のベースはあるが、その時の体調や気分、希望によって柔軟に対応している。また、使用する椅子やマット、介助人数も利用者に合わせて取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況やその日の体調を考慮し、一人一人に合わせた休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬がないように、名前、用法、日付を記入し、職員が配薬もしくは介助し、確実に飲めているか確認する体勢をとっている。症状変化による服薬の判断は看護師のもと、行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の意欲や得意なこと、その時の体調や気分に合わせて調理活動以外にも洗濯物や新聞たたみ、雑巾縫いなど取り組んでいる。できない方や意欲の乏しい方への安らぎの支援を今後も大切にしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する利用者が固定化しないように配慮しながら、近隣の喫茶店や買い物、散歩、お参りなど日常的な外出支援に取り組んでいる。ベランダで外気浴もいい気分転換となっている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解もものとご本人が現金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は一人一人に合わせて行っている。不安などから電話を希望される方には、事前に家族に説明し了解のもと、行っている。電話をしたいと言いやすい環境づくりにも努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	椅子以外にソファを玄関やフロアに配置し、くつろげるスペースをつくっている。トイレや台所、お風呂など共同の空間は居心地よく使えるように、臭いや汚れには特に気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係も踏まえて、食卓の席にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切なものや馴染みの物を持ってきていただけるように説明し、本人にとって安らげる居室づくりに取り組んでいる。その際、安全面にも配慮した配置に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクを考慮しながらも見守りを多くしたりとミーティングで話し合っている。		